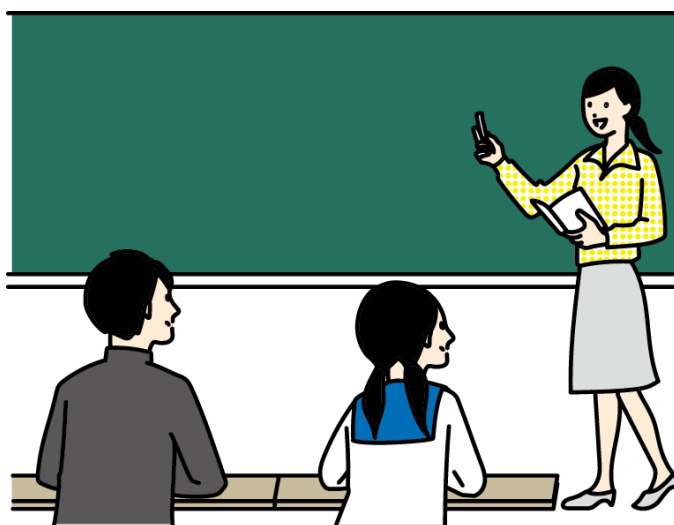


多様な子供たちの 読書と学びを育む 学校図書館へ

特別支援学校図書館
整備と活用の3ステップ



令和8年8月 文部科学省

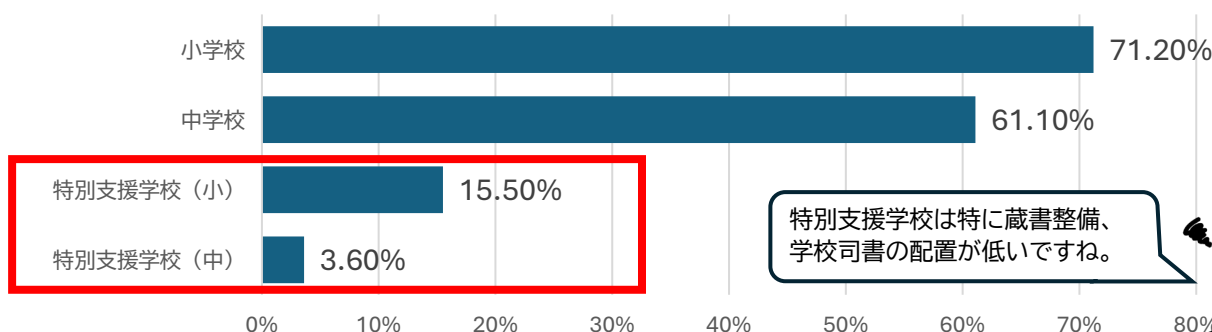
学びの深化を担う学校図書館

学校図書館は、学校図書館法に規定されているように、教育課程の展開への寄与と健全な教養の育成を目的とした、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備です。

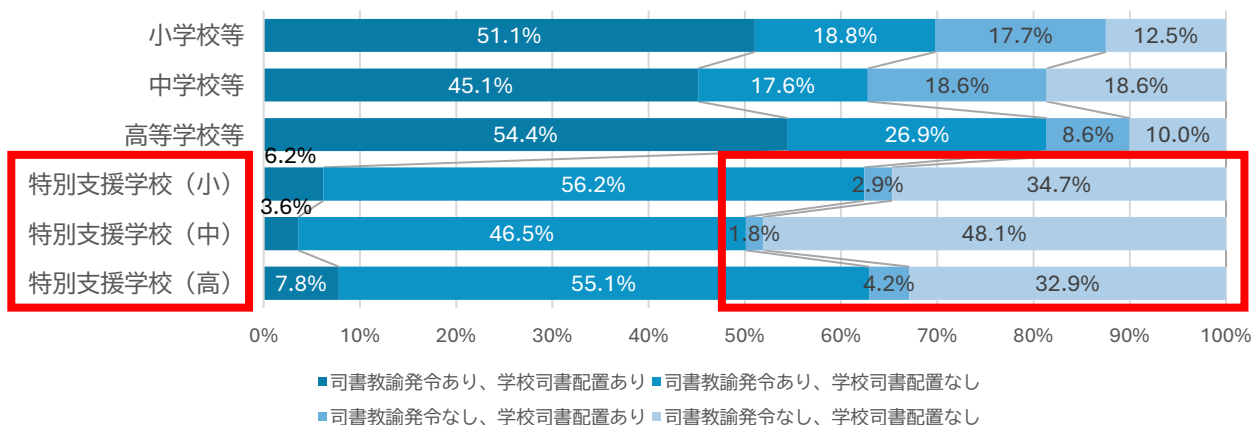
これからの学校図書館には、読書活動の推進に加え、調べ学習や新聞等の多様なメディアを活用した学習等、各教科等の様々な授業において活用されることで言語活動や探究活動の場となり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する役割が一層期待されています。

特別支援学校の整備状況

学校図書館図書標準を達成している学校の割合



司書教諭・学校司書を配置している学校の割合



令和2年度「学校図書館の現状に関する調査」公表結果より

特別支援学校図書館の整備に向けた3stepはこちら

Step1

意識を変える、体制を作る

校長先生、出番です

学校経営計画の中には、「学校図書館」は入っていますか？
学校全体の教育課程に位置付けて学校図書館を活用できていますか？
学校図書館の活用に向けて計画を立てて進めましょう。



鳥取県では、「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」を作成し、それに基づいて、各学校が図書館の活用について年間計画に位置付け、身に付けたい力を明確にしながら学校図書館を活用した教育活動実践を支援しています。ぜひ参考にしてください。



鳥取県学校図書館支援センターウェブサイト
<https://www.library.pref.tottori.jp/support-center/>

司書教諭がつなぐ授業と学校図書館

全ての教科等において、教員が円滑に学校図書館を活用した授業を展開できるよう、司書教諭は学校司書と連携しながらサポートしましょう。

鳥取大学附属特別支援学校では、司書教諭と学校司書の連携により、多様な障害の特性を把握し、それに対応しながら、誰にとっても使いやすい構造の設計や、学校図書館の教育課程の展開に寄与、教員による教材研究の相談（レファレンスの利用）の定着等、子供が主体的に資料を活用する授業展開の実践を目指しています。

学校司書はいますか

学校司書を置くことで、学校図書館の運営は大きく改善します。学校司書は、各教科等に必要な資料を整備したり、資料を探して子供と教員へ提供する役割等を担います。また、読み聞かせやお話、レファレンス等も大切な仕事です。

広島県立広島中央特別支援学校では、学校司書（特別支援学校事務職員）の配置により、子供の多様な障害の特性に合わせて、点字図書の整備や、書架の高さや配置の工夫等、安心して読書活動に親しむことができる環境整備を進めています。



広島県立広島中央特別支援学校図書館

Step2

空間と蔵書を充実させ、活用につなげる

学校中で「読みたい」「知りたい」を引き出す ただそこに居たいと思える空間を作る

学校図書館のほか、安全を確保しながら共用の部屋や教室に蔵書を置いて読める環境を作ることも有効です。また、「ただそこでくつろぎたい」と思えるような学校図書館の環境をつくることも大切です。

子供の居場所としての学校図書館が、今求められる役割となります。

本を読むだけでなく、下校前に友達と一緒に過したり、図書館の先生との会話を楽しんだりする等、「読書センター」としての機能に加え、子供の居場所づくりを意識した環境整備が大切です。



愛知県立岡崎聾学校

多様な蔵書が読書と学びの幅を広げます

子供たちの読む本は様々です。読みやすいと感じる本も異なります。「こんな本もいいかも」「この本の方が読みやすいかも」と想像しながら蔵書を揃えることが、子供の読書と学びを推進します。障害の特性等に応じて、多様なバリアフリー資料を蔵書に加えることも有効です。



新聞を読むことが大好きだったり、興味のままに拾い読みを楽しんだりすることに、障害の有無は関係ありません。様々な資料を揃え、子供の「読みたい」を叶えましょう。マンガやイラスト・写真付きの本は、読解の助けになります。



鳥取大学附属特別支援学校

新聞コーナーの隣にソファがあり、ゆっくり読めます。

新しい本があるっていいね

子供たちから「学校図書館の本が古い」「読みたい本はもう読み終わっちゃった」と言われることがあります。子供たちの「読みたい」を叶える蔵書を揃えましょう。

地域の図書館から、借りることも有効です。



東京都立鹿本学園

新しい本を見やすい場所に展示することも効果的です。

地域の図書館と連携することによって、子供の興味・関心を把握したり、蔵書を揃えたりすることができ、自然と読書活動に親しむ環境を整備することができます。

Step3

学校図書館をもっと宣伝しよう

学校図書館だよりはありますか

学校図書館を普段利用しない子供や教員にも、「学校図書館はこんな場所です」と定期的にPRしましょう。学校図書館だよりを発行したり、子供や教員が普段通る廊下等に掲示物を貼ったりすることも有効です。広報を、子供や教員は見ています。また、図書委員と一緒にPRすることも重要です。子供同士の口コミでも利用が広がります。

学校図書館だよりを見て、「この本が読みたい」と来館する子供もいます。また、学校図書館をあまり利用しない子供へのアプローチとしても、学校図書館だよりを定期的に発行し、子供や教員に見てもらうことで、利用促進につながります。

鳥取大学附属特別支援学校では、学校図書館だよりで「バリアフリー図書」を紹介し、読書の親しみやすさや楽しさを伝える工夫をしています。



鳥取大学附属特別支援学校

教育委員会の皆様へ

誰もが学びに活用できる学校図書館に向けてバックアップをお願いします



- ・学校図書館が教育課程の展開に寄与することや、子供の読書環境を整備し、日常的に「読書センター」「学習センター」「情報センター」の役割を機能させるため、司書教諭の発令、学校司書の配置を促してください。
※特に特別支援学校では、司書教諭、学校司書の配置により、障害の特性に合わせて、情報をアクセシブルな媒体に変換することで、一人一人の教育的ニーズに応じた、適切な指導と支援の充実が期待できます。
- ・学校図書館に関する研修を定期的に実施し、専門性を高め、学校図書館に関する理解を学校内で広げるようにしてください。
- ・適切な予算措置を通じて、多様な蔵書を十分に整備できるよう促してください。
- ・地域の図書館や、点字図書館等との連携を促し、学校図書館のサポートをお願いします。
- ・各地方公共団体における読書バリアフリー計画※1や子ども読書活動推進計画※2に、「特別支援学校図書館の充実」を位置付けてください。

※1 視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）（令和元年法律第49号）第8条

※2 子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）第9条

参考資料

学校図書館ガイドライン

(平成28年11月29日付け文部科学省初等中等教育局長通知)

学校図書館をめぐる現状と課題を踏まえ、さらなる学校図書館の整備充実を図るため、教育委員会や学校等にとって参考となるよう、学校図書館の運営上の重要な事項についてその望ましい在り方を示したガイドライン。

ガイドラインは、学校図書館の目的・機能、運営、利活用、携わる教職員等、図書館資料、施設、評価から構成している。学校図書館は「読書センター」「学習センター」「情報センター」の機能を有していることや、それらの機能の発揮に向け、学校図書館の館長としての役割を担う校長のリーダーシップの重要性が示されている。

ガイドライン内の「図書館資料の種類」では、発達障害を含む障害のある子供や日本語能力に応じた支援を必要とする子供の自立、社会参画に向けた主体的な取組を支援する観点から、子供一人一人の教育的ニーズに応じた様々な形態の図書館資料(点字図書、LLブック、マルチメディアDAISY(デイジー)図書、読書補助具、電子図書等)の充実を求めている。

文部科学省ウェブサイトより

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1380599.htm

LLブック

「LL」とはスウェーデン語の「LättLäst」(英語ではeasy to read)の略であり、「LLブック」は誰もが読書を楽しめるように工夫してつくられた「やさしく読みやすい本」のことを指す。

知的障害を持つ方や、日本語が得意ではない方をはじめとした一般的な情報提供では理解が難しい様々な方にとっても読みやすいように作られている書籍。



社会福祉法人埼玉福祉会ウェブサイトより

<https://www.saifuku.com/shop/llbook/about.html>

マルチメディアDAISY (デイジー) 図書

音声と一緒に、文字や画像が表示されるデジタル図書。表記された文書を音声で聞きながら、画面上で絵や写真を見ることができる。

読み上げているフレーズの色が変わる(ハイライト機能)ため、どこを読んでいるのかが一目でわかる。自分が読みやすいように、文字の大きさ、音声のスピード、文字や背景の色を選ぶことが可能。

これらの機能を有するマルチメディアDAISY図書は、発達障害(自閉スペクトラム症、学習障害、注意欠如多動症等)、知的障害、肢体不自由、視覚障害(全盲・弱視)等のために、通常の書籍を読むことが困難な方に有効であるとされる。



2015年版Ver.BLUE 「ももたろう」 文:浜なつ子 絵:よこやまようへい

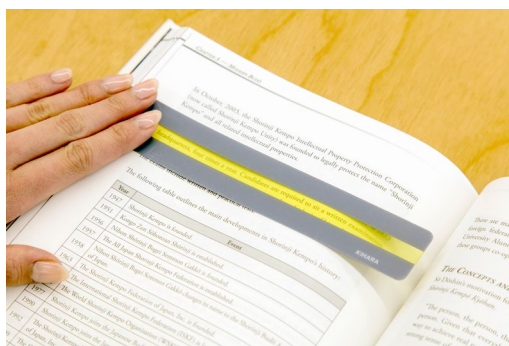
公益財団法人伊藤忠記念財団ウェブサイトより

<https://www.itc-zaidan.or.jp/summary/ebook/waiwai/daisy.html>

リーディングトラッカー

学習障害（ディスレクシア）や、視覚障害（視野狭窄や黄斑変性等）の読書をサポートする読書補助具であり、集中して読書をしたい人にも便利なツール。読みたい行だけに視点を集中して文章を読むことができる。

近年は、リーディングトラッカーを設置する学校や図書館も増えてきている。



写真提供:キハラ株式会社

視覚障害者等の利用しやすい書籍等の整備・提供体制強化に向けて

国立国会図書館の「視覚障害者等用データ送信サービス」や、全国の点字図書館等が製作したデータを提供する「サピエ図書館」を積極的に活用し、利用者への周知と登録支援を行うことが考えられる。

学校図書館等における読書バリアフリーコンソーシアム

（令和7年度文部科学省委託事業）

学校関係者（大学の学識経験者、特別支援教育関係者、公立図書館等関係者）により組織し、障害のある児童生徒・学生のための読書バリアフリー推進の取組を実施するコンソーシアム。

コンソーシアムウェブサイトにて、読書バリアフリーの先進的な取組をしている事例や、読書バリアフリーの取組の開始方法について具体的に紹介されている。併せてご参照いただきたい。

事例で学ぶ

教育現場で読書バリアフリーについて先進的な取組をされている事例をご紹介します！進めよう、豊かな読書活動！



読書バリアフリーのはじめかた

読書バリアフリーの取り組み、教育現場でも色々な立場の方がはじめています。はじめてみたいという時にどんなはじめ方ができるのか、以下のリンクをぜひ参考にしてみてください。

校長先生 | 特別支援教育コーディネーター | 学校司書 | 公共図書館 | 地域の方 | 学校の先生がやってみるとき

学校図書館等における読書バリアフリーコンソーシアムウェブサイトより
<https://accessreading.org/conso/>

読書バリアフリーコンソーシアムテクノロジーハブ

（令和7年度文部科学省委託事業）

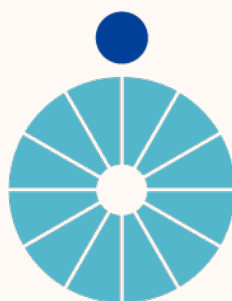
読書のためのICTスキル習得支援に関する情報集約を行い、デジタルデバイド解消及びその先にある読書バリアフリーの達成へ向けた活動を実施。様々な組織・団体等が連携した「読書バリアフリーコンソーシアム」を設置し、資源の共有をはじめとした様々な読書バリアフリーの取組を行っている。



読書バリアフリーコンソーシアムテクノロジーハブウェブサイトより
<https://www.i.tsukuba-tech.ac.jp/techhub/>

イラストテンプレート（著作権フリー）も配布中です。ご活用ください。

<https://www.i.tsukuba-tech.ac.jp/techhub/mikanoperatingmodel/#Ny4g5bqD5aCx>



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課

【協力機関】

愛知県立岡崎聾学校／東京都立鹿本学園／鳥取県教育委員会／鳥取
大学附属特別支援学校／広島県立広島中央特別支援学校（五十音順）

【企画協力・助言】

全国学校図書館協議会（野口武悟、磯部延之）※敬称略